

【度欲爺の妄言録】

海外で貴金属製品・宝石を買う時は

貴金属の装身具なら東南アジアではなく、その出来栄えが良くかつまた工賃が安いので中東地域がお買い得であり、中東製品は日本で身に着けていても恥ずかしくないほど細工が良い。

1996/1997年に七回にわたって短期出張したイランで300gほどの18金の装身具を買って帰国しようとした時にX-線検査でカバンに入れた装身具が見つかり空港の警備員に止められた。そこで、一つ一つ取り出して、「これは女房、母親、妹、娘へのお土産だ」と説明すると、ニヤッと笑って通過させてくれた。イラン人も家族、特に女性には弱いのだと思わずニヤけてしまった。

中東の金製品には日本にないデザインのものも多いから、金製品が好きな女性には高く売れそうだ。中東に長期間出張するときにはUSD5000ほど現金を持って行って金製品を買ってくると良い。現地に友達がいれば都合がよいが、この方法は観光旅行者にはお勧めできない。

金製品

ルーペで詳細に見ればバリなどの処理がきちんと行われているかがわかるが、ネックレスの仕上がりの良さを見る簡単な方法としては、ネックレスをセーターの腕に当ててネックレスを引いてみることだ。ネックレスが引っかかったらバリが多い、すなわち細工が良くないので買わないのが良い。また、ネックレスなら手に下げて360度回してみても反射光が均一になっている商品を選ぶべきだ。

東南アジア諸国で金製品の質、金の含有量が低くて細工が悪いのはインドネシア製である。

海外で貴金属製品・宝石を買う時は

金の含有量は 18 金が一般的であり、タイなどでは 24 金がしばしば使われているがインドネシアでは 14 金が一般的だ。ベトナムとカンボジア、タイ、ミャンマー、インドネシアのプロジェクトで筆者の専門である鋼構造物の溶接施工実績を見た結果、インドネシアが最悪であるという結論になった。全体的に見ると職人たちが不器用だから金細工も溶接も上手ではないのだろう。ヨグヤカルタの銀製品もデザインがアンバランスで出来が悪いものが多い。

宝石を選ぶには

宝石を選ぶときは必ずルーペを持参して、内部の割れ(crack)や異物混入(inclusion)の有無、色むらなどに注意することが必要だ。たとえ傷や異物混入がなくても値段が異常に安いサファイヤは色の薄い原石をコバルトで焼いて着色したものが多い。また加工精度が悪いためにカットした面が一点で交差していないものも多いとベトナムのホーチミン市の宝石屋で感じた。カットが悪いとその輝きも悪いので注意が必要だ。



宝石屋でこうやって石を吟味しているととても嫌がられる。旅行者を騙せないからだ。

考えても見てくださいな。こんな小さくて高価なものなら簡単に運べるではないか。そう、宝石はほぼ国際価格で取引されているので、産出国で売られているのは輸出した宝石の「残りカス」なのだ。ミャンマーでもスリランカでも現地の市場に並んでいるものは質の低い宝石ばかりだが、相場の 10 倍以上の値段をつけていた。それを指摘したところ、スリランカのコロンボにある宝石商は怒りだしてしまっただがミャンマーのヤンゴンにあるアウンサン市場の宝石商ではこれに反応がなかった。やっぱり人を見ているんだな!

また、現地の信用ある店で購入したい時には、宝石の質や値段などをよく知っている知人に同行してもらって彼/彼女のアドバイスに従うとババをつかまされなくてよい。でもその知人は宝

石店からコミッションを貰って安物を高く売りつける手伝いをしているかもしれないことを忘れてはならない。ちなみに、私は 25 年前にテヘランのグランバザールでトルコ石を、若い頃にシンガポールでサファイヤを女房に買ったくらいで、高価なものはほぼすべて日本で購入している。

インドネシアの宝石と貴石

2006 年にカリマンタンのバンジャルマシンに出張した時に、マルタプラの宝石商に寄ってみた。店頭に表示されているダイヤモンドは色は H(黄色)で夾雑物(V)が入ったものばかりであった。元々この島で産するダイヤモンドは質が悪いとされているから、シロートは買わない方がいい。

一時期、メノウのパワーストーンに凝っていたことがあった。インドネシアでは翡翠(ヒスイ=右の写真)はあまり産出されないが赤瑪瑙(メノウ)や白瑪瑙、縞瑪瑙などが沢山産出されていて安い。尚、翡翠もインドネシアでは取引されているがバイヤーはほぼ華人である。翡翠はミャンマーが主な生産地だ。



面白い模様の縞瑪瑙を探すためにジャカルタのジャティネガラ駅前にある Pasar Bening という宝石市場に足しげく通った。探していたのはカボションに成形されたもので、一袋約一リットルになろうかという整形されたメノウを 20 分程度かけてパワーストーンとそうでないものにより分けてその中でも美しいものだけを分別して、次の袋からパワーストーンをまた探す。これを三時間ほど繰り返すと、紅茶茶碗一杯程度のパワーストーンが見つかるので、それから価格交渉にかかる。

一粒が数万ルピアと店主はいつてくるが、そんなことは聞き入れない。「大量に買うから卸値にしろ」、「お前はこの石を食べることはできないだろう。だから俺が慈善事業として大量に買い取ってやるんだ」と言い値の三分の一から五分之一に値切って買ってやることを常にしていた。

海外で貴金属製品・宝石を買う時は

これらの宝石商人はミナン人が多いので、西スマトラ州で働いていた時のことを話題にして値切交渉をしたのが効いたのかもしれない。売り手が納得しない時には、さっさと次の店に行く。そうすると前の店の店主が飛んできて値引きに応じるということも多々あった。

この瑪瑙の一部の写真を[こちら](#)に掲載した。

この市場ではスリや置き引きが多いのでバッグや財布は体の前に付けておくのが良い。スリもプロなので捕まったらヤバイ相手からは抜き取ろうとはしない。市場の人たちによって袋叩きに会うからだ。常に周りを監視しながら石探しをしていたので余計疲れたのかもしれない。

パワーストーンについて

パワーストーンは色々なエネルギーを磁石のように放っているのだから、三時間も探すと疲れてきて頭が痛くなってくるほどだ。パワーストーンを探す技能を身につけるには本人の才能とかなりの努力と時間を要するから、シロートは手を出さない方が良い。

パワーストーンはある種のエネルギーを持っていて、それが色々な効果を持つと言われている。しかしながら店で買ってきたパワーストーンを身につけているだけでは良い効果が得られない。内部のエネルギー(情報)を一度抜き出して、その人に必要なエネルギーを注入してやる必要がある。そう、USB のスティックメモリーと同じだ。またこのようなパワーストーンを長期間身につけていると、本人にとって不適な情報(ゴミ)がこのパワーストーンに蓄積されるから、定期的に内部のデータを formatting する必要がある。電気掃除機のゴミ袋と同じことだ。以前に友人が猫目石のブレスレットをしていたので formatting してやったことがあった。ん、と感じたので「最近このブレスレットをして墓地に行かなかったか？」と尋ねたら、その通りだとびっくりしていた。パワーストーンはこんな情報まで集めてしまうのだから、ご注意あれ。

イランでの宝石探し



産地のアフガニスタンに近いテヘランではトルコ石が安いことを事前に知っていたので、1997年にイランに出張した際に、テヘランのグランバザールでジャカルタと同様に数時間かけてカボションに磨いた人差し指の爪サイズの美しいトルコ石を選んで茶碗一杯(約 50 粒)買い、ついでに金のルチル入りラピスラズリもいくつか買って来たことがあった。全部でUSD500程度だった。

トルコ石は写真のように夾雑物がなく色むらのないものを選ぶと良い。インドネシアの田舎のお爺さんがしているトルコ石は大きいだけで茶色の夾雑物がたくさん入っているものをスンダ海峡の渡るフェリー上でしばしば見かける。トルコ石は紫水晶にくらべてパワーストーンの存在率が低く、夾雑部のあるトルコ石にはパワーストーンが少ないと言える。

ちなみにアフガニスタンのトルコ石は全て薄い青だが、ペルーでよく見かけた南米のトルコ石には緑がかかったものが多かった。右の写真参照。



装身具を作ってみないか?

購入した宝石をペンダントかネックレスヘッドかブレスレットにするかはその人の好みによる。裸の石を宝飾品に自分で加工してみたい人は東京の御徒町の専門店街で石をはめるペンダントの枠やチェーンなどを探してみるのも良い。御徒町駅の東口を出て秋葉原方面に宝飾関係の商店が軒を連ねている。手工芸の好きな方ならこの町をウィンドウショッピングするだけで結構楽しいのでお勧め。加工する道具も売っている。手工具だけならそれほど高価ではない。

++余談++

上記のテヘランの宝石店から宝石加工用のダイヤモンドビット(ドリルのような形をした加工

海外で貴金属製品・宝石を買う時は

用の刃物)を日本から買ってきてほしいとの依頼があった。彼らが使っているものは工作機械にはめる部分のステム(軸)がインチサイズであり、御徒町で探してみたところ日本にはミリサイズのものしかなく、これを使うには特殊なコレット(ビットを締め付けるアダプター)が必要なのでビットの購入ができないことをテヘランに連絡したことがあった。

ちなみに木工用のルータービットもインチとミリサイズのものがあるので購入時に注意すべきだ。サイズの異なるコレットを使うと加工機械本体が壊れることがあり、取り返しがつかなくなるので要注意。シロートではインチサイズとミリサイズの見分けがつかないので、0.1mm まで測れるノギスなどで軸径を確認する必要がある。

私はこのような駄文を多数上梓していますが、専門は大型の鋼構造物と機械関係の技師(国家認定のエンジニアの「技術士」)なんですよ。趣味は日曜大工。

++さらに余談++

このテヘランの店で石探しをしていると40歳台と思われる男性が寄って来ておずおずと話しかけてきた。もちろん私はペルシャ語が全く分からないから無視していたところ、同行してくれたイラン人の友人が一言二言かれに話しかけたところ、残念そうに去っていった。後でこの友人に尋ねたところ、この男性は隣国のトルクメニスタンからテヘラン迄来たのは良いのだが財布を無くして国に帰れないので旅費を貸してほしいとのことだったとのこと。寸借詐欺とは思われたが、この男性が私に借用を申し込んだ理由を友人に尋ねると、私のような顔つきのトルクメニスタン人が沢山いるから尋ねたのだらうと、友人は笑っていた。

「そうか、私はインターナショナルではなくて日本からトルクメニスタン迄適用できるグローバルフェイスをしているのだ」と心の底でほくそえんだことがあった。(終)

(初出 Facebook 2023/10/16~24)

アップロード 2023/10/26